

地質標本館イベント「ガイドツアー」開催報告

福田 和幸¹・下川 浩一¹・村岡 やよい²・小川 浩¹・高橋 正明¹

1. はじめに

地質調査総合センター（以下、GSJ）地質標本館では、イベント「地質標本館ガイドツアー」（以下、「ガイドツアー」）を開催しています。ガイドツアーとは、専門の研究者と一緒に約1時間館内を巡り、展示物について詳しく解説を聞くことで地質について理解を深め、より身近に感じてもらうことを目的としたイベントです（福田，2024）。2024年度には、2024年10月26日（土）、および2025年3月8日（土）の計2回のガイドツアーを実施しました。ここでは3月に開催したガイドツアーについて報告します。ガイドツアーではあらかじめ「地質標本館展示解説登録者」に登録されたGSJの研究者から希望者を募り、自身の研究に関連する「テーマ」に沿って、研究者に地質標本館展示物の解説・案内をしてもらっています。普段一般の方々がGSJの研究者に接することは少ないと思いますが、本ガイドツアーは、研究者のテーマに沿って、研究者から直接、地質標本館展示物の知らなかった部分をより詳しく解説してもらおうという趣旨のイベントです。

2. 当日の様子

2025年3月8日（土）に開催したガイドツアー（第1図）について、その様子を報告します。

今回は、それぞれ異なるテーマで4人の研究者による計4回のツアーを行いました（第1表）。各テーマの募集定員をそれぞれ15名に限定し、ウェブサイト上での事前予約を行いました。予約開始から数時間で一部の回は定員に達し、3日以内にほぼ全ての回が定員に達するほどの人気ぶりであり、多くの方に認知される、定着したイベントになってきていることを感じます。

「地震と活断層のはなし」の回では、下川が担当しました。最初にロビーへ移動し、地震計について簡単に紹介・説明し、天井の展示物で日本列島の地震の起こり方や被害地震の分布の説明の後、東日本大震災の後に仙台市若林区でのジオスライサー調査で採取した津波堆積物のほぎ取り標本を示して、津波堆積物調査の成果を解説しました。そ



第1図 2025年3月8日開催のポスター。

の後、活断層トレンチ調査の成果として、糸魚川-静岡構造線活断層系の岡谷断層のはぎ取り標本から活断層の活動時期の読み取りや活動時期の予測について説明しました。第1展示室では、日本列島大型3Dプロジェクションマッピングを用いて、地形や地質図、衛星写真などの基図の上に、構造線や活断層分布、活火山など様々なデータを重ねることにより、それらの関係がわかりやすく示されることを説明しました（第2図）。また、第2展示室では、太平洋の海底地形模型でプレート境界の説明と、世界の地震はほとんどこれらの境界で発生していることを、世界の地震分布図のパネルとともに説明しました。さらに、第3展示室では、東北地方太平洋沖地震で液化化した千葉県神崎町の地層のはぎ取り標本の前で液化化の痕跡について解説するとともに、新しい学問分野としての地震考古学に触れました。

「石と地質図のはなし」の回では、村岡が担当しました。第4展示室では、好きな石、特に花崗岩の話から始まり、岩石・鉱物のでき方、分類の説明を行いました。また、第1展示室の地質図のコーナーでは、実際に研究者が野外調

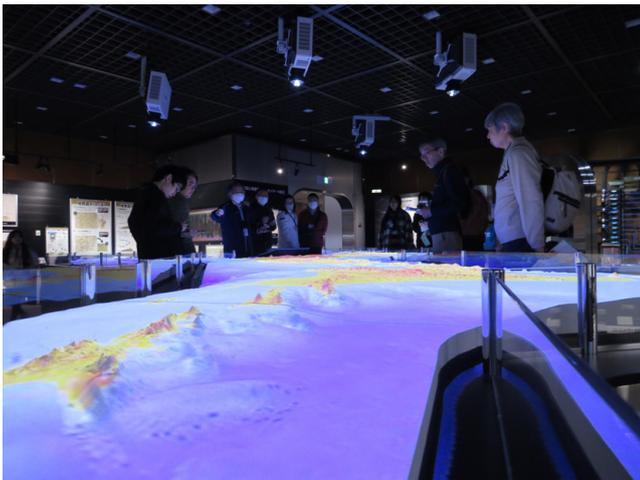
¹ 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

² 産総研 地質調査総合センター地質情報研究部門

キーワード：地質標本館、イベント、ガイドツアー、展示解説登録者

第1表 ガイドツアーのプログラム.

時間	テーマ	解説者
9:45~10:45	「地震と活断層のはなし」	下川浩一（地質情報基盤センター）
11:15~12:15	「石と地質図のはなし」	村岡やよい（地質情報研究部門）
13:30~14:30	「鉱物の形と結晶構造のはなし」	小川 浩（地質情報基盤センター）
15:00~16:00	「温泉と地熱のはなし」	高橋正明（地質情報基盤センター）



第2図 「地震と活断層のはなし」の様子.



第3図 「石と地質図のはなし」の様子.

査を実施し、現地で岩石を採取して、分析・検討を重ねて何年もかけてようやく1枚の地質図ができるので、地質図作成はとても手間がかかる大変な作業だという説明を行いました(第3図).

「鉱物の形と結晶の形」の回では、小川が担当しました。最初に映像室で、鉱物の形を決める要因には結晶構造の対称性と物理的・地学的要因があることを講義形式で説明しました。その後参加者には第4展示室、2階廊下の青柳鉱物標本の前で特徴的な外形を示す鉱物標本を実際に観察していただきました(第4図)。最後に、第3展示室で結晶構造がもたらす特異な現象である複屈折を、方解石と偏光板を使って観察していただきました。

「温泉と地熱のはなし」の回では、高橋が担当しました。第1展示室の日本列島大型3Dプロジェクションマッピングを用い、日本の東西南北の端、あるいは最高標高にある温泉の紹介を行いました。第3展示室では富士山と箱根火山の3D模型を用いて箱根温泉の形成機構、泉質分布を説明した後、日本の地熱資源のパネルを用いて地熱発電の現状について解説を行いました(第5図)。最高標高の温泉の



第4図 「鉱物の形と結晶構造のはなし」の様子.

近傍にある通称「^{ずいどう}高熱隧道」の熱の起源に関する質問など、活発な質疑応答がありました。

参加者にはガイドツアー終了後にアンケートをお願いしましたが、「ただ展示物を見ているだけではわからなかったことを詳しく解説してもらい勉強になった」、「初めて専門



第5図 「温泉と地熱のはなし」の様子。

家の方の話を直接聞くことができ、また話すことができた貴重な体験となりました」など、非常に満足したという感想をいただきました。また「実際の野外に行って一日ガイドツアーをして欲しい」という要望もいただきました。

3. おわりに

地質標本館ガイドツアーを開催するにあたり、計画段階から実施に至るまで、多くの職員の方々にご協力いただき

ました。ここに御礼を申し上げます。ある回では、大学院に進むか就職するかを悩んでいる学生や、4月から大学の地学専攻に入学予定の学生らから「どうして研究者になったのか」など将来に関する質問も多くありました。このようなことから、従来のガイドツアーのように地質標本館展示物を解説・案内するだけでなく、研究者と意見を交わしながら研究者との距離を縮めるエクスカージョン型のガイドツアーも将来地質学を目指す若者にとって必要なものと思ひ、新たな試みとして検討しています。地質標本館では今後もGSJの研究成果発信や一般地学・地球科学の普及に努めてまいります。

文献

福田和幸 (2024) 地質標本館イベント「ガイドツアー」開催報告. GSJ 地質ニュース, 13, 260-263.

FUKUDA Kazuyuki, SIMOKAWA Koichi, MURAOKA Yayoi, OGAWA Hiroshi and TAKAHASHI Masaaki (2025) Report on the guided tour of the Geological Museum.

(受付：2025年4月22日)